

多職種合同研修会の参加報告

むつ下北薬剤師会 広報・情報委員会 細川 智弘

令和7年8月23日の土曜日に、プラザホテルむつで行われた多職種合同研修会に薬剤師として参加してきました。

グループディスカッションでは2つのテーマでディスカッションが行われ、ケアマネジャーや救急救命士の方や行政の方とディスカッションをしました。

1つ目は在宅療養支援で薬剤に関することで困ったことをどんなふうに解決していますかというテーマです。多職種から出た困った事例としては、

- ・医療機関の薬は近隣の薬局でもらうので意図せず痛み止めの重複などが実際にある。薬局をひとつにすることが望ましいが地理的に難しい。

- ・お薬手帳が複数冊ある場合、どれを持っていけばわからなくなる。

- ・高齢者の中には薬を飲めなかったり本人が飲む気がないこともある。

といった話がありました。私の方からは、

- ・確かにひとつの薬局からまとめて薬をもらっていただくことが理想的だが、地理的に難しい部分もあるので必ずお薬手帳を携帯することが重要であること。

- ・お薬手帳が複数冊ある場合は薬局でまとめてもらうことをお願いしてほしいこと。

- ・飲み忘れや飲み間違いが心配な方にはおくすりカレンダーの使用が効果的であることや、利用者様によっては日付を書いたりすることも有効であるため実践している。

旨を伝えました。さらにマイナンバーカードを来局時に通していただくことで、今まで服用していた薬のみならず健康診断の数値も薬剤師が認識できることを伝えました。

2つ目は、こんなシステムがあればもっとつながっていけるのというテーマでディスカッションを行いました。ここでは救急救命士の方から、マイナ保険証の紐づけが普及してほしいとの意見や安心キットの存在を知ってもらい、もっと家庭に普及してほしいといった話がありました。ケアマネジャーからは高齢者の看取りにおいて、病院や行政からの情報共有がもっと普及することが必要ではないかという意見がありました。

この研修会には薬剤師以外にも様々な職種の方々が出席されていました。この研修を通じてその方々に、薬剤師としてどういったことができるのかということを知っていただく一助になったのではないかと感じています。今後も多職種の方にも積極的に薬剤師の存在意義をアピールすることが大事であることを再認識できました。今後もこういった研修会に参加することで薬剤師の存在意義を伝え、少しでも患者様や利用者様の役に立ちたいと思います。